

米国におけるライティングセンターの役割

ワシントン研究連絡センター

豊木 麻紀子

1. ライティングセンターとは

ライティングセンターとはより良い書き手の育成を目的¹とし、教育機関、研究機関等に設置されている部署である。現在、アメリカでは多くの高等教育機関が学生を対象としたライティングセンターを学内で展開しており、研究機関においても研究者向けにライティングセンターの展開が行われている。ライティングセンター関係者の職能団体である **International Writing Centers Association** (以下IWCA) によると、以下の六点がライティングセンターの共通概念としてハリスにより定義されている²。

1. チュートリアルが1対1の環境下で行われること
2. チューターが教育者としてではなく、コーチ、コラボレーターであること
3. 指導を必要とする学生のニーズがチュートリアル時に中心となること
4. 実験 (experimentation) と練習 (practice) がエンカレッジされること
5. 指導を受ける学生が様々な形の執筆活動において指導を受けられること
6. いかなるライティング能力を持った学生でも受け入れること

なお、設置機関によって設置形態、予算、対象者等が大きく異なっていることから、実際の活動内容は各ライティングセンターによって大きく異なっているのが現状である。

2. 日本におけるライティングセンターの展開

日本においてもライティングセンターを設置している大学は少数存在する。日本のライティングセンター関係者の職能団体として機能している **The Writing Centers Association of Japan** のウェブサイトによると、ライティングセンターを設置している大学は上智大学、津田塾大学、東京大学、名古屋大学、早稲田大学等計 11 機関³あり、具体の活動内容は英文ライティングのみを指導、特定の学部にも所属する学生のみを対象とした指導、全学学生を対象とした指導、またはチューター制の導入等、各大学によって異なる。筆者の所属する東京大学では 2008 年に駒場キャンパスの学部生に対して個人指導形式での英文ライティングの指導を行う「駒場ライターズスタジオ」が設立⁴されており、2012 年夏学期からはチュートリアル以外のプログラム展開も行われている。駒場ライターズスタジオでは、2008 年より開講された必修授業である理科生向けの英文ライティングプログラム **ALESS (Active Learning of English for Science Students)** および文科生向けの **ALESA (Active Learning of English for Students of Arts)** を履修中の学生やその他学生の相談等に対応している。

¹ North, S. M. (1984) pp. 438

² Harris, M. (1988)

³ Writing center resources - The Writing Centers Association of Japan (2015 年 2 月 25 日アクセス)
<https://sites.google.com/site/wcajapan/writing-center-resources>

⁴ Active Learning of English at Komaba (KWS) (2015 年 2 月 25 日アクセス)
<http://ale.c.u-tokyo.ac.jp/joomla/index.php/kws-public>

3. アメリカにおけるライティングセンターの事例報告

アメリカにおけるライティングセンターの展開例として、メリーランド大学カレッジパーク校、テキサス A&M 大学カレッジステーション校、アメリカ国立衛生研究所（NIH）のライティングセンター担当者にそれぞれインタビューを行った。

3-1. メリーランド大学カレッジパーク校

チューター養成教材の一つとして全米に普及している *The Bedford Guide for Writing Tutors* の著者の一人であるリー・ライアン氏がディレクターを務めるメリーランド大学カレッジパーク校ライティングセンターを訪問した。なお、メリーランド大学カレッジパーク校では、学部生を対象とするライティングセンターと大学院生を対象とするライティングセンターが別に設置されており、本報告書では学部生向けのライティングセンターについてインタビューを行った。

<大学概要>

設置形態：州立大学

学生数：37,248 名（学部生 26,538 名、大学院生 10,710 名）⁵

THE World University Rankings⁶ World Rank 2014-15：132 位⁷

<インタビュー対応者>

ディレクター リー・ライアン氏

アシスタントディレクター ダグ・カーン氏

アシスタントディレクター ナビラ・ヒジャジ氏

ライティングセンター設置の背景および組織

1974年に学部1年生向けのライティングプログラムの附属施設として、学生が自分のライティングについて対話する場所を設けるために **English Department** に設置された。当初は学部生6人と大学院生一人の対話形式であくまで対話の場所として提供されるにすぎなかった。

数年後、上級生かつ弁護士や会計職等専門職を希望する者向けに対し専門職で必要とするためのライティングスキルを養うためのプログラムが作られ、第二のライティングセンターが設置された。第二のライティングセンターは専門職に就いていたリタイア後の人々をチューターとして雇用し、学生が希望する専門職の内容に即した指導を行っていた。これら二つのライティングセンターは後に合併されたが、ライティングプログラムを受講中の学生のみ利用可能な状況は継続

⁵ 2013 UNIVERSITY OF MARYLAND HIGHLIGHTS (2015年2月25日アクセス)
http://umdrightnow.umd.edu/sites/umdrightnow.umd.edu/files/2013_fact_card_final.pdf

⁶ Times Higher Education World University Rankings

⁷ University of Maryland, College Park(2015年2月25日アクセス)
<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/2014-15/world-ranking/institution/university-of-maryland-college-park>

していた。

現在においても **English Department** に設置されているが、全学予算が措置されており、全学の学部学生がライティングセンターを利用可能となっている。

現在、ディレクター、アシスタントディレクターのほか、後述するインターンの学生も含めるとチューターの数には 62 名にのぼる。アドミニストレーションスタッフとして、オフィスマネージャー1名、学部生が 5-6 名、シニアボランティアが 5-6 名勤務している。ディレクターは担当している授業があり、アシスタントディレクターにおいては週 10 時間程度の勤務となっており、フルタイムで勤務しているのはオフィスマネージャーのみである。チューターにおいては学生によって時間数に差はあるものの、週数時間程度の勤務が多い。

スタッフリクルーティング及びトレーニング

リクルーティングについては学部生全員の必修授業である **Upper Writing Course** の受講生にフライヤーを配布するとともに、教員と独自のネットワークを築き、ライティングが得意かつ人々と働くことが好きな学生を紹介してもらうように依頼している。また、ディレクター、アシスタントディレクターにおいては授業を持っているため、授業を受講する学生から直接リクルートすることもある。また、前述の管理側で勤務している学生から毎年数名リクルートを行っている。

チューターになることを希望する学生は **Writing Center Internship** という授業を履修することが求められており、全員 1 学期間、週に 1 回 2.5 時間開講される授業に出席する必要があり、学生は受講 4 週目からライティングセンターでインターンとして勤務を開始する。また、修了時に学生には 3 単位が与えられる。

なお、本授業を受講するためには推薦状、ライティングサンプル等を提出し、選考を通る必要がある。受講が許可された学生については受講の時点で雇用が確約されるわけではないが、ほぼ全ての学生が修了後チューターとして雇用される。

学生の専攻については、国語 (**English**) 専攻が一定数を占めるが、教育学、コミュニケーション専攻も多い。特に制限を設けているわけではないが、すべての学問にライティングスキルは重要であるという考えの下、チューターの専攻には一定の多様性を持たせるようにしている。

英語を第一言語としない学生への対応

学生がライティングセンターにチュートリアルの予約を入れる際は、オンラインでの予約が必須となっている。予約に必要なアカウント登録時に第一言語および家庭で使用している言語を記入するようになっており、アカウント登録データを通してライティングセンターの利用学生の言語使用状況を把握している。メリーランド大学カレッジパーク校は DC 近郊にキャンパスがあるため、家庭における言語使用状況は非常に多様性に富んでおり、英語が第一言語でない学生がライティングセンターを利用することが多いため、特に **ESL** 等を受講中の学生に対して専門のチューターは設けていない。

また、学生からのニーズを把握する方法として、各学期の開始時にチュートリアルで使用する希望言語はあるかアンケートを行っており、希望の多かった言語について対応可能なチューターがいた場合はライティングセンター内に張り紙をし、新しい言語でのチュートリアルが可能と

なったことを知らせている。現在は中国語でのチュートリアルが可能となっているが、英語以外のチュートリアルに対応できるチューターの数は限られているためウェブサイトで告知せず、ライティングセンター内にフライヤーを貼り告知する形をとっている。

学生へのアウトリーチ活動

ライティングセンターについては事前予約をする学生が多数を占めており、学生の間でライティングセンターが普及していると考えられるため、アウトリーチ活動にそこまで注力はない。

現状のアウトリーチ活動としてはウェブサイトでの PR に加え、新入生オリエンテーション、留学生オリエンテーションに出席しライティングセンターの説明を行っている。また、教員がチューターを授業に呼び、チューターが 10 分ライティングセンターについてプレゼンテーションを行う授業訪問という制度も活用している。学生にとって情報が多くかつ楽しめるビデオの作成についても近年取り組んでおり、近日中に公開を予定している。

上記の取り組みに比べてややインフォーマルなアウトリーチ活動としては、キャンパス内の他団体とのイベントの共催がある。人文学系専攻とのワークショップ開催や、将来弁護士になることを希望する学生の団体とのイベントを共催することにより、学生の日常生活にライティングセンターを溶け込ませることを目的としている。

なお、過去においてはライティングセンターについて説明したフライヤー、スケジュールを印刷した名刺カードを配布したこともあったが、現在はペーパーレスに移行しているため配布を行っていない。

ライティングセンターの利用条件

メリーランド大学カレッジパーク校の学部学生である限り、どのようなライティングでもチュートリアル対象となる。多言語話者の学生においては課題の意味をうまく理解できないことも多く、ブレインストームの場としてチュートリアルを利用する学生もいる。また、課題ではないが、就職活動時に用いるパーソナルステートメント、CV、履歴書、カバーレターについてもチュートリアル対象となる。

ライティングセンターにおける独自のプログラム

グラマーホットラインという取り組みをおこなっており、文法等に関する問い合わせに対応している。ホットラインという名前のおり電話での対応となるため、学内では学生のみならず、教職員からの問い合わせに対応しており、学外においても様々な場所から問い合わせがある。ホットラインの対応時間はライティングセンターのスケジュールと連動しているが、ライティングセンターが閉まっている場合にも留守番電話で対応し、ライティングセンターが開いた際に電話を折り返し、問い合わせに回答している。

オンラインチュータリング

現在、シンクロナス形式でオンラインチュートリアルを行っている。2年前にオンラインチュートリアルを開始した当初、学生はビデオ形式のチュータリングを望むと考えていたがチャット

形式でのチュートリアルを希望する学生が非常に多い。当初はアシンクロナス形式に移行させ、すべての学生がオンラインでチュートリアルを希望するライティングを提出し、それに対しチューターが対応することを考えていたが、アシンクロナス形式に移行するには多額の予算が必要となること、また、人的リソースについても提出された課題を振り分ける人員等が必要になる点から移行を見送った。オンラインチュートリアルについては米国内では提供する場所が減っており、オンラインの大学等でないと継続した運営が難しいと考えている。

3-2. テキサス A&M 大学カレッジステーション校

次に、全学的なライティングセンターの展開を行う事例として、テキサスA&M大学カレッジステーション校の事例を紹介したい。テキサスA&M大学のキャンパスはカレッジステーション校、ガルベストーン校と二つあるが、本インタビューではテキサスA&M大学に所属する学生のうち93.2%⁸が在籍するカレッジステーション校のライティングセンターを訪問した。

<大学概要>

設置形態：州立大学（ランドグラント大学）

学生数：49,221名⁹

THE World University Rankings World Rank 2014-15：141位¹⁰

<インタビュー対応者>

アソシエイトディレクター キャンディス・シェーファー氏

ライティングセンター設置の背景、及び組織

学部生のみを支援するライティングセンターとして設立された。組織としては学務系の部署であり、プロボストを筆頭に全てのチュートリングを監督するアソシエイトディレクター等のスタッフによって構成されている、現在55人のチューターがおり、内訳としては学部生の方が多い。なお、組織上学部課程所属の一機関として機能しているが、学部学生だけではなく、大学院生もライティングセンターを利用可能。

スタッフリクルーティング及びトレーニング

秋学期にトレーニングを開始する場合は春学期に、春学期にトレーニングを開始する場合は秋学期に選考を開始する。ライティングセンター側でアプリケーションを準備しており、専攻、GPA、志望理由等様々な項目について希望者が記入する仕組み。アプリケーションの中で特に重視して

⁸ Texas A&M University Enrollment Profile Spring 2014 (2015年2月25日アクセス)
<http://dars.tamu.edu/dars/files/c6/c65e244e-8575-44f3-9ba3-c9b49aeb81.pdf>

⁹ 同上

¹⁰ Texas A&M University, <http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/2014-15/world-ranking/institution/texas-aampm-university> (2015年2月25日アクセス)

いるのはチュータリング・シナリオという項目である。教員が学生に与えた課題に対し、あるフィードバックを与え、学生がライティングセンターに相談しに来た場合、教員が与えたフィードバックに沿うようにいかに指導を行うか、を記述してもらう。

また、良いライターでないとライティングセンターのチューターになれない、と学生は考えがちであるが、決してそうではない。チューターはライター、編集者というよりも学生のライティングを導く立場にある。文法や APA、MLA 等の引用方法を教えるのは比較的容易なのに対し、正解のないライティング課題について人々と対話しながら一つの完成品とするのは対人スキルを必要とするため、それらのスキルについても注意して見るようにしている。

トレーニング等としては、スタッフの育成プログラムとして、College Reading and Learning Association (CRLA) のプログラムを採用している。プログラムは三学期間受講が必要であり、受講した場合学部生には単位が付与される。CRLA のカリキュラムを使うことにより、ある程度カリキュラムの標準化が可能になると考え、本カリキュラムを採用した。また、スタッフ全員が集うミーティングを週 1 回開催するほか、研修として秋学期の初めに 1 日研修、春学期の初めに半日間研修を行っており、研修中も給与の支払いを行っている。

利用者数

2014 年秋学期には 2579 人の学生がライティングセンターを利用しており、そのうち 1946 人が学部生、612 人が院生となっている。

人数だけを見ると学部生の利用が多いように感じられるが、学部生の多くが一回のセッションで課題を完成させ、1946 人中 2 回目の指導を必要とするのは 478 人のみである。一方、院生は学位論文などの指導を必要としているケースが多く、一つの課題に対し必要なセッションの数が多く、612 人中半数を超える 318 人が 2 回目以降のセッションを受けている。

ライティングセンターの利用条件

Texas A&M の学生であれば、必ずしもチュートリアルを必要とするライティングが授業で与えられた課題である必要はない。例えば、就職活動時に企業に対して提出する履歴書、カバーレター等もライティングセンターのチュートリアル対象となる。また、プレゼンテーションで使用するスライドファイル、発表原稿についてもチュートリアルを受けることが可能。プレゼンテーションのチュートリアルについては特に専門のスタッフはおらず、チューターがライティング課題と同じように指導を行う。

ESL を受講する学生へのプログラム展開

ESL を受講しつつライティングセンターを利用する学生は 2014 年秋学期で 724 人に上った。しかし、本項目については自己申告制であるため、更に多くの学生がライティングセンターを利用している可能性もある。なお、ESL の対象となりうる留学生の多くが大学院生¹¹である。

¹¹ 留学生全体のうち 77% が修士、博士、もしくは専門職課程に所属している。

Texas A&M University Enrollment Profile Spring 2014

<http://dars.tamu.edu/dars/files/c6/c65e244e-8575-44f3-9ba3-c9b49aeb81.pdf> (2015 年 2 月 25 日 アクセス)

また、ESLの学生向けに二つのプログラムを準備しており、一つが学期中毎週月曜夜に開催される留学生向けワークショップである。本ワークショップはアメリカの文化的な側面についても扱うこととしており、仕事にどう応募するか、教員とのコミュニケーション、何かを書くときに簡潔に書く練習等をコンサルタントが指導している。もう一つのプログラムはPLACEと呼ばれており、留学生が登録すると英語を母語とする学生の間で会話の練習等ができるものである。留学生が日ごろ疑問に思っているイディオムやスラングの使い方等についてはライティングセンターでは質問しにくい性質のものもあるため、留学生にとっては非常にいい機会を提供できていると考える。いくつかのイディオム表現についてはYoutube上でビデオを作成した。

ライティングセンターにおける独自のプログラム

学位論文を執筆中の学生については、来る度に違うチューターに論文の詳細な説明をすることを好まない者もいるため、チュートリアル10回の間は同じコンサルタントを担当とするプログラムを実施している。また、学院論文のチュートリアルを担当するチューターについては新人ではなく、最低でも上記CRLAのカリキュラムでトレーニングの最終学期である3学期目に入っている必要がある。

また、試験期間中にライティングセンターが設置されている図書館の一部を借りて、ライティングリトリートを行っている。これは中間もしくは学期末の課題の締切前に学生が静かに課題に取り組む環境を提供する試み。センター側で飲み物とスナックを準備し、ライティングコンサルタントと司書が学生からの問い合わせに午後5時から深夜0時まで対応する。ライティングリトリートについては予約が不要となっている。

学生へのアウトリーチ活動

Texas A&M大学全ての学生にライティングセンターを知ってもらいたいと考えており、アウトリーチ活動の担当をおき、フレッシュマンオリエンテーション、オフキャンパスオリエンテーション、留学生オリエンテーション等で学生にライティングセンターを知ってもらう機会を設けている。2014年の夏にウェブサイト(図1)を刷新したほか学生の多くが利用しているソーシャルメディアも積極的に活用し、Facebook、Twitter、Instagram¹²、Pinterest¹³、Youtubeを通じて毎日情報の発信を行っている。また、情報を発信する際は、同じ情報を各ソーシャルメディアにアップすることとしている。

¹² 写真を撮り、加工したものをアップに対し、他のユーザーがコメントをつけたりする仕組み。ピューリサーチセンターによると18歳以上のインターネットユーザー全体のうち26%がInstagramを利用しており、Instagramのユーザーの53%を18歳-29歳の若者層が占める。(Duggan, et al. 2015)

¹³ 気に入った画像やウェブページを保存し、保存された情報をピンボードのように表示するウェブサイト。気に入った保存データにコメントの送付、または保存データを自分のページに再保存することが可能。ピューリサーチセンターの調査によると18歳以上のインターネットユーザー全体のうち28%がPinterestを利用し、Pinterest全体ユーザーの34%が18-29歳の若者層である。(Duggan, et al. 2015)



図 1 14

3-3. アメリカ国立衛生研究所

前述のメリーランド大学カレッジパーク校、テキサス A&M 大学では学生を対象に授業の課題を中心としたチュートリアルの展開を行っているが、研究者を対象としたライティングセンターの展開の例として医学、生物学領域に特化した研究所であるアメリカ国立衛生研究所のライティングセンターにおいてもインタビュー調査を実施した。

< 研究所概要 >

設置形態：国立

研究者数：5,200 人程度（うち主任研究員 1,200 人、ポスドク 4,000 人）¹⁵

< インタビュー対応者 >

シンディ・クラーク氏

ライティングセンター設置の歴史、組織構成等

2008 年にライティングセンターの設置を検討するチームが設置され、同年内に実験的に NIH 内に設置されている一つの研究所でライティングセンターの展開を行った。2009 年に全 27 研究

¹⁴ University Writing Center – Home – Texas A&M University (2015 年 2 月 25 日アクセス)
<http://writingcenter.tamu.edu/>

¹⁵ NIH はファンディングエージェンシーとしても機能しているが、これらの数字は NIH の研究施設において研究活動に従事する者の人数を指す。Organization and Leadership – NIH Intramural Research Group
<http://irp.nih.gov/about-us/organization-and-leadership> (2015 年 2 月 25 日アクセス)

所に所属する研究者の作成する論文等の編集を担当する部署として設立された。組織としては図書館の一部署として機能しており、予算も図書館の予算から措置されている。

現在は図書館全体で 48 名の常勤職員および 15 名の契約職員が雇用されており、そのうちライティングセンター業務を専門的に担当しているのは編集担当のエディター 8 名、医学、生物学の特定分野に特化したインフォメーションист 5 名である。

ライティングセンターの利用条件

利用対象者は NIH に所属している研究者である。利用が可能かどうかは別部署から発行される NIH の ID を持っているかどうかで判断する。NIH を退職後非常勤で研究を続ける研究者、国内外の他研究所からの客員研究員等、様々な勤務および雇用形態があることからライティングセンターでは職名等による利用資格有無の判断を行っていない。

また、エディティングサービスの対象となるライティングについては、依頼者本人の職務と関連のある論文、著作等が対象となっている。

利用件数、利用状況

2009 年からのエディティングサービス依頼数はのべ 300 件を超えており、毎年の依頼は 60 件程度。ただし、特定分野の論文エディティングを行うインフォメーションистが担当するエディティング、及びエディターが個人的に研究者とやりとりを行っている件数については前述の数字に含まれていない。

依頼の内容としては論文等に加え、パワーポイントおよびその原稿、式典等における挨拶、論文アブストラクト、ポスターのエディティング依頼が多い。特にポスターにおいては若手の客員研究員が学会や NIH で開催している NIH Research Festival のポスターセッションで発表する際に編集を依頼することが多い。

トレーニング、雇用プロセス

現在編集を担当するエディターが 8 名、医学、生物学の特定分野に特化したインフォメーションист 5 名が雇用されている。スタッフは全員修士号を持っており、その多くがライブラリーサイエンスの分野での修士号であるため、修士号を取る課程においてサイエンスライティングを実際に経験している。また、雇用されたスタッフの多くが学部課程において国語、ジャーナリズム、コミュニケーション等を専攻している。

新規採用された職員については外部の機関が開講しているサイエンスライティング研修プログラムを活用しており、同じ研修プログラムを受けることにより、全員がサイエンスライティングについて共通の認識を持つことが可能になっている。また、プレーンランゲージ¹⁶に関するオンライン講習も受講することとなっている。

既に雇用されている職員については、年に 1 度夏に全員が集う研修の機会を設けている。研修

¹⁶ 米国政府文書等をより公衆にとってよりわかりやすいものとするために考えられた概念。1970 年代のニクソン大統領時代から本格的にプレーンランゲージを普及させる施策が実施されており、NIH をはじめアメリカ食品医薬局、連邦官報等様々な政府機関において推進活動が進められている。

の運営自体は業者に委託しており、毎年入札を行い、業者を決定している。過去の研修テーマは”Working with researchers whose primary language is not English”、”Researchers, publishing, and good editing”等。

エディティングサービスの流れ

研究者から論文等編集の依頼があった場合、全ての依頼はライティングセンターの管理職2名に送られ、そのうちの1名が依頼者と依頼内容に関する詳細なやりとりを行った後、エディティング業務をエディターに割り振る仕組みとなっている。エディターに案件を割り振る際には、一人のエディターに仕事が集中しないように各エディターに順番に仕事を割り振ること、また、依頼案件がジャーナルに投稿が予定されている論文である場合、投稿前に英語を母語とする者の編集を必須としているジャーナルか、もしくは投稿予定のジャーナルが英系の英語を使うのか、アメリカ系の英語を使うのか等投稿要件を詳細に確認した上で適当な担当を割り振る。

なお、エディティングといっても編集済みの論文を依頼者に送付するのではなく、論文をより良くするための改善点を提案するため、最終的に提案を受け入れるかどうかは依頼者に決定権があるということを全ての依頼者に説明している。

エディティング終了後、改善点のコメント等を付した原稿を依頼者に返送し、メールの最後には満足度を調査するウェブアンケートへのリンクを付している。ウェブアンケートの最後にはエディティングサービスに満足した場合、論文の謝辞部分に含めてほしい旨が記載されており、貼り付けるだけで謝辞が完成する文例が表示されている。謝辞に含めてもらうことはエディター、インフォメーションист本人にとって大きなインセンティブであると同時に、自分の仕事が公になるという点で良いプレッシャーになっている。なお、インフォメーションистのうち一人は特定の研究グループのエディティングを1年以上担当し、最終的には共同著者として論文に名前が掲載されたこともある。

研究者へのアウトリーチ活動

NIH 全体のニュースレターにライティングセンターの記事を掲載し、プレゼンスを高める努力を行っている。また、NIH ウェブサイトにはライティングセンターを含めた学内の一部部署へのリンクが Quick Link という形でトップページに貼ってあり、研究者の目に届きやすいようにしている。

ライティングセンターにおける独自のプログラム

NIH および米国保健福祉省(US Department of Health and Human Services)職員を対象に論文執筆を行う際に使うソフトウェアの使用法や原稿の編集方法、データの可視化方法等について授業を開講している。著作権、剽窃行為に関係する授業も行っており、こちらは年に1回対象者向けにオープン登録形式で開講するほか、各研究所からの講師派遣の依頼等に合わせて開講している。

また、iThenticate という剽窃行為を採知するシステムを購入し、論文に剽窃行為と疑われる箇所等がないかチェックを受けることが可能。本サービスを利用するには、エディティングサー

ビス利用時の条件に加え、依頼者が未発表の論文においてファーストオーサー、セカンドオーサー、コレスポンディングオーサーであることが必須となっている。依頼があった場合はオンライン上に論文をアップし、チェック結果を編集等せずに依頼者に送付する。しかし、チェック結果は他の論文と酷似している可能性が高い箇所があった場合はそれぞれの箇所を精査し、一般的な言い回しが酷似していると判断されたのか、それとも引用が必要と思われる箇所が検知されたのか判断を行い、依頼者へのアドバイスを行っている。

依頼者の希望によってはメールのやりとりのみでなく、対面形式でのフィードバック、アドバイスを行うこともある。対面形式を希望する依頼者の多くが初めてファーストオーサーとして論文執筆、もしくは今まで執筆経験のある論文とは違った形式の論文を始めて執筆することが多く、依頼者が実際にこれらのケースに該当する場合は論文のエディティング業務のみならず、論文の執筆方法、NIH で使用できるリソースの案内等も合わせて行っている。

4. おわりに

今回インタビューを行うことができた機関は3機関と非常に限られており、今回のインタビュー結果から筆者が理解したライティングセンター像は極めて限られたものであるが、ライティングセンターにおける様々なプログラムの展開、またライティングセンターにおけるスタッフ育成の試み等について情報収集を行えたことは非常に有意義であった。

アメリカの高等教育機関、研究機関においては多様性の確保が常に求められており、特に大学においては全て同じ中等教育を受けた学生が入学してくるわけではないため、全ての学生がアカデミックライティングに同じレベルの知識およびスキルを持っている可能性は低い。アカデミックライティングを不得手とする学生にとって、1対1でチュートリアルを受けることができるライティングセンターは非常に理想的な環境となるのではないだろうか。また、留学生や英語を母語としない研究者にとってライティングセンターにおいて英文ライティングのチュートリアルを受けることは非常に大きなプラスになるだろう。

また、日本でのライティングセンター展開を考えた際にはアメリカのライティングセンターをベースに、日本独自のライティングセンターを発展させていく必要があるように感じた。これから留学生、外国人研究者の増加に伴い更に多様性に富むことが予想される大学、研究機関においては米国の大学と違い、日本語を全く解さない学生や研究者が増加していく可能性がある。また、世界的競争力を高めるためには研究成果の発信力強化も必要であり、英語での論文執筆にあたり編集サービスを必要とする研究者の数も増えていくのではないだろうか。これらの点を踏まえると一言語のみでのプログラム展開を行うのではなく、二言語、もしくは多言語環境におけるプログラム展開が必要になる可能性が高い。厳しい予算状況が続いているが、学生と研究者双方に役立つサービスとしてライティングセンターの展開は非常に重要であると考えられる。

参考文献（ウェブサイトのアクセス日は全て 2015 年 2 月 25 日）

2013 UNIVERSITY OF MARYLAND HIGHLIGHTS

http://umdrighnow.umd.edu/sites/umdrighnow.umd.edu/files/2013_fact_card_final.pdf

Active Learning of English at Komaba (KWS)

<http://ale.c.u-tokyo.ac.jp/joomla/index.php/kws-public>

Duggan, M., Ellison, N., Lampe, C., Lenhart, A., & Madden, M. (2015). Demographics of Key Social Networking Platforms.

<http://www.pewinternet.org/2015/01/09/demographics-of-key-social-networking-platforms-2/>

Locke, J. (2004) A History of Plain Language in the United States Government

<http://www.plainlanguage.gov/whatisPL/history/locke.cfm>

Harris, M. (1988) Slate (Support for the Learning And Teaching of English) Statement: the Concept of a Writing Center

<http://writingcenters.org/resources/starting-a-writing-cente/writing-center-concept/>

NIH Library Writing Center

<http://nihlibrary.campusguides.com/WritingCenter>

North, S. M. (1984) The Idea of a Writing Center, *College English*, Vol. 46, No. 5(Sep., 1984), 433-446

<http://www.jstor.org/stable/377047>

Olson, G. (Ed.). (1984). Writing Centers: Theory and Administration. National Council of Teachers of English.

<http://files.eric.ed.gov/fulltext/ED246483.pdf>

Organization and Leadership-NIH Intramural Research Program

<http://irp.nih.gov/about-us/organization-and-leadership>

Ryan, L., & Zimmerelli, L. (2010). The Bedford guide for writing tutors (5th ed.). Bedford/St. Martins.

Threadgill, E. (2010) Writing Center Work Bridging Boundaries: An Interview with Muriel Harris. *Journal of*

Developmental Education (2nd issue, Vol. 34, pp. 20-22, 24-25). National Center for Developmental Education.

Texas A&M University. – Times Higher Education World University Ranking

<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/2014-15/world-ranking/institution/texas-aampm-university>

Texas A&M University Enrollment Profile Spring 2014

<http://dars.tamu.edu/dars/files/c6/c65e244e-8575-44f3-9ba3-c9b49aeb81.pdf>

The Writing Centers Associations of Japan. Writing center resources - The Writing Centers Association of Japan

<https://sites.google.com/site/wcajapan/writing-center-resources>

University Writing Center - Home - Texas A&M University

<http://writingcenter.tamu.edu/>

University of Maryland Department of English Writing Center

<http://www.english.umd.edu/academics/writingcenter>

『The University Times Vol. 27』2013年4月29日刊 「東京大学 グローバルコミュニケーション研究センターの挑戦（前篇）」

http://info.japantimes.co.jp/u_times/pdf/vol_27/ut_vol_27_04.pdf

駒場で学ぶ新時代の英語——「教養英語」と「ALESA」

<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/about/booklet-gazette/bulletin/555/open/B-2-1.html>

中尾まさみ（2013）「駒場で学ぶ新時代の英語——「教養英語」と「ALESA」」『教養学部報第555報』

<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/about/booklet-gazette/bulletin/555/open/B-2-1.html>